

水産衛生対策（内水面）

内海遼一・松尾 怜（内水面試験地）

目 的

将来にわたって、安全な養殖生産物を安定的に供給していくためには、伝染性疾病の発生予防・まん延防止による食料の安定供給体制の整備等を地域の水産業や食品流通等の実態に応じて機動的かつ総合的に実施していく必要がある¹⁾。

また、都道府県は、養殖水産動物の疾病の発生を予防するために、魚病の発生に関する情報収集、検査を実施するとともに、養殖業者への衛生管理指導・啓発を行い、魚病の発生予防、早期発見、まん延防止を推進するとされている²⁾。

本事業では、養殖水産動物の防疫指導を適切に行うことで疾病のまん延防止を図り、安心・安全な生産・供給体制を確立することを目的に、内水面での養殖衛生管理体制の整備を推進し、養殖場の巡回指導や魚病検査等を実施した。なお、本事業は、消費・安全対策交付金（交付率：50%）及び県費により実施した。

方 法

1. 養殖場の巡回指導

令和4年4月～令和5年3月に、内水面養殖場の巡回指導を行った。

2. 魚病検査、健康診断及びアユの放流前保菌検査

養殖業者から診断を依頼されたものや、巡回指導時に採取した検体について魚病検査を行い、検査結果に応じた魚病対策指導を行った。方法は外部症状や内臓の病変等を観察するとともに、寄生虫の有無を調べ、腎臓から菌分離を行った。分離菌はPCR法により同定した。

健康診断は、アユについて、冷水病、エドワジエラ・イクタルリ感染症、エロモナス症、カラムナリス症及び異型細胞性鰓病の原因細菌又はウイルスの保有状況を検査した。

アユの放流前保菌検査は、河川・湖沼への病原体のまん延を防止するために、河川放流直前のアユ種苗について種苗生産業者及び中間育成業者を対象に実施した。対象疾病は冷水病とエドワジエラ・イクタルリ感染症であり、アユ疾病に関する防疫指針³⁾に基づいた方法で行った。

3. 医薬品残留検査

内水面養殖業における水産用医薬品の適正使用指導に資するため、スルフィソゾールの残留検査を外部委託（委託先：一般財団法人日本食品検査）により行った。供試魚は県北部及び南部の各1業者から当該医薬品の投薬歴がある出荷直前のアユ50個体とした。方法はアユの筋肉部5尾分をホモジナイズして1検体とし、合計10検体について、高速液体クロマトグラフによるスルフィソゾール試験法⁴⁾とした。

結果及び考察

1. 養殖場の巡回指導

養殖業者に対して、魚病対策指導及び水産用医薬品の適正指導を実施した。令和4年度は14日で延べ24業者を訪問、聞き取り及び指導を行い、必要に応じて魚病検査又は保菌検査に供する検体を採取した。

2. 魚病検査、健康診断及びアユの放流前保菌検査

(1) 魚病検査

魚病検査について、令和4年度魚種別・月別魚病検査件数を表1に示す。全体の件数は4魚種で16件であった。アユでは冷水病が4月に3件と7月に1件、細菌性鰓病が7月に1件診断され、また原因解明に至らない不

明の件数が計 3 件あった。またアマゴでは冷水病が 5 月、6 月及び 9 月にそれぞれ 1 件、不明が 11 月に 1 件、ヘラブナではウオジラミ症が 8 月に 1 件、ニジマスではウオジラミ症が 7 月に 1 件、中毒症・エロモナスが 10 月に 1 件診断された。

(2) 健康診断

アユでは、1 月から 3 月に合計 5 件実施し、いずれも異常は認められなかった。

(3) アユの放流前保菌検査

令和 4 年度種苗別・月別保菌検査件数を表 2 に示す。全体の件数は 14 件で、うち人工産種苗が 9 件、海産種苗が 5 件であった。全ての検体で冷水病細菌及びエドワジエラ・イクタルリ感染症原因菌の保菌は確認されなかった。

表 1 令和 4 年度魚種別・月別魚病検査・健康診断件数

検査種類	魚種	診断状況	2022年										2023年				計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
魚病検査	アユ	冷水病	3			1									4		
		異型細胞性鰓病				1									1		
		不明			1	1				1					3		
		特になし	1												1		
	アマゴ	冷水病		1	1			1							3		
		不明										1			1		
	ヘラブナ	ウオジラミ症					1								1		
	ニジマス	ウオジラミ症				1									1		
		中毒症、エロモナス								1					1		
健康診断	アユ	異常なし										2	2	1	5		
計			4	1	2	4	1	1	1	1	0	3	2	1	21		

表 2 令和 4 年度アユ種苗別・月別保菌検査件数

		2022年										2023年			
種苗	診断状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
人工産	保菌なし	3											6	9	
海産	保菌なし	1											4	5	
計		4											10	14	

3. 医薬品残留検査

いずれの検体からも、スルフィソゾールは検出されなかった。

文 献

- 1) 農林水産省（2021）消費・安全対策交付金実施要綱。令和 3 年 1 月 28 日 2 消安第 4897 号，第 1。
- 2) 農林水産省（2020）水産防疫対策要綱。令和 2 年 12 月 21 日。
- 3) アユ疾病対策協議会（2011）アユ疾病に関する防疫指針。平成 23 年 12 月。
- 4) 平成 17 年 1 月 24 日付け食安発第 0124001 号厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知。「食品に残留する農薬，飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」別添「食品に残留する農薬，飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法」